

濁沢遡行記録

遡行日：平成24年5月26日（土）

パーティーメンバー

L：白土 悟
齋藤 広明

R：早川 尚武

日付が変わって0時30分、自宅を出発。準備に手間取ってすっかり遅くなってしまった。少し寝てから出たかったが、絶対に寝過ぎと思ったので、現地で車の中で仮眠をとる用意をして行く事にした。

随分珍しい人からお誘いが来たもので、三ツ峠で、土日でマルチピッチの練習をする予定だったけど、1日沢はどうですか、と言われ、沢と言われて断れるハズもなく、では一緒にしましょう、と相成りました。場所は市川大門方面の芦川の支流となる濁沢。結構登攀的らしい。芦川沿いの県道36号線から入渓して、また県道にもどるなんともコンビエントな沢です。

夜明け前に、入渓点の橋の近くの駐車スペースに車を止め、束の間の浅い睡眠をとった。夏の短夜はすぐに明るむ。すっきりしない夜明けを迎えてしまった。

6時頃、相前後して2人が到着。身支度を整えて出発する。駐車スペースは、濁沢の橋から、芦川の上流側に50mばかりのところ。車を降りてすぐに沢に入る感じ。橋のたもとから、水田の導水路を伝って沢へ入る。入って5分もしないで1発目。1段目約20m。4段続いている。結構大きいな、とボンヤリした頭で感じ入った。今日はチーフリーダーとリーダー会のメンバーが付いているので、安心し切った脳みそは全然覚めないまま。とにかく記録用の写真撮影にばかり頑張っちゃったりしたりして。

俄然闘志を燃やす2人は、簡単なルートなんて眼中に無い。おお、白土リーダー、そこ

から手を付けますか。左岸の緩いところには目もくれず、いきなり直登ルートへ。残念ながら、ヌメリがひどくて後戻り。果敢だなあ、とこちらは感心して観ているだけだから、あまり程度はよろしくない。



気を取り直して、左岸から再登。こちらは乾いているので、登りやすい。2段目、3段目はすぐに越せた。

続く4段目、左岸側壁のバンドを伝って左上して落ち口へ登り詰める。バンドに、庇状に岩が被さり、足下が微妙にヌメリがあるので、あまり感じが良くない。調子が上がらないのでイマイチやる気も起きず。「行きますか。」と聞かれて、行きませんでした。

白土さん、リード。カムの利きが悪く少し手こずる場面があるも、しっかり登り切る。続いて齋藤さん。最後にノコノコ付いていくわたし。



続いて、5m2つ、2m2つと続いていく。
距離はあまり進んでいない。1つ目の5mも
なんとなく登りづらく、ちょっと神経を遣う。



出発して1時間40分。ようやく20m滝。
左岸側が乾いていて、ルートがありそう。齋藤さんリードで取り付く。



この後も、ナメ滝が連続していく。小さい滝は快調に越えていく。そこへ、グッと谷が狭まり15mゴルジュ滝。滝壺の左側が洞穴状になっているなかなかの奇観。話しによると、どこかの奇特な方が登ろうとしたらしい。人類に不可能は無い。成せばなる、のかな？しばらく景色を楽しんで、左岸に巻きルートを探した。



このすぐ上、岩を穿つ様に何段も滝が続いている。自然の造形が結構面白い。山の神様の、曲水の宴の場を思わせるかの様で。



チョックストーンがある3mほどのチムニー状の滝が現れた。白土さん、当然のごとく水流にルートをとる。遅れじと自分も続く。齋藤さんは、何故か引いていた。出口で引っ掛かってなかなか出られないところが面白いのに。



そんなこんなで、ようやく裏見の滝へ。ここで既に10時30分。どうやらこの沢、前半に色々と具が詰まっている様子。ここでちよいと記念撮影を楽しんだ。





～白土さんです。ノリがいいです～



～齋藤さんです。何故かテレてます～

この後はしばらくゴーロが続く。山仕事用の小屋でも建てていた跡であろうか。沢岸に石垣が積んであったのには驚いた。そこから生えている木が随分太かったので、相当昔に造られたんでしょね、なんて話しをしながら感心しつつ見入る。

その後、また滝が現れ始めると、3m前後のを中心に連続して出てくる。もう難しいのは無いので、快調に進む。それでも、前半に時間を取られているので既に11時を回っていた。滝の景観はなかなか面白く、見た目が楽しめた。

そうしたところで、最後の大物15mスラブ滝。直登は手が付けられないので、左の草付きから登る。落ち口に抜けようとする、又メっているのが気持ち高巻き気味に、その少し上から越えていく。泥壁を登るようになってくると、そろそろゴールが近いかな。



水流も少なくなり、だんだんと涸滝となってきた。あと2つほど越えればそろそろ遡行終了である。



ところが、最後の最後、支沢の涸滝を見て、何故か齋藤さん闘志を燃やす。白土さんにビレイを頼んで取り付いちゃった。源頭部の滝は脆いからムリじゃない？

結局諦めてクライムダウン。そのモチベーションの高さには感服致します。

ザレ場を詰め上がって、遡行終了。稜線に13時45分到着。靴を履き替えて14時出発。なんだかザラザラした尾根を滑り落ちて下山する。仕事道でもあるかな、と思っていたけど、案外に踏み跡が無く、地図を片手に

見当を付けながら進んだ。人家が近い所まで降りてくると、ようやく道らしき所に出た。しばらく進むと、不思議な耕作地に出た。こんな所まで畑を作りに来ているのか、と驚いてしまった。集落までは、下りで10分位あったかな。登ってくるのは、もっと大変だろうに。

岱集落、県道到着 15時8分
駐車スペース到着 15時12分。

オマケの話し

翌日は三ツ峠に行くので、白土さんとはここで別れ、温泉に入って、今夜の仮泊地とした道の駅なるさわへ向かった。最近の流行りで、車中泊しながら旅をする人がいっぱいいる。そんな中、駐車場の一角にシートを拡げて2人でちょっとばかし飲み始めた。なかなか熱い、彼の山への思い入れに少なからず心を動かされた私でした。



～飽くなき闘志を燃やす齋藤さん～



～新緑の稜線にて～



～戦士の休息～



～今日もいい天気ですよ～